

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	先進的ケア・ネットワーク開発 研究分野
学籍番号	13S3021	院生氏名	川村 真由美
通学キャンパス	東京青山キャンパス		
論文題目	シングル介護の危機的状況および危機促進・回避要因の検討 —有効的な支援に向けて—		
審査結果 (枠で囲む)	<input checked="" type="checkbox"/> 合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>要介護高齢者が増加する一方、未婚者や離婚者の増加、兄弟数の減少、同居率の低下等により、単身で介護をする者が増えており、それに伴い介護殺人や虐待、心中なども増加している。本論文は、このようなシングル介護者の危機に焦点をあて、Mixed Research Designを用いた記述的・探索的研究として以下の三つの調査を行い、早期介入に有効な危機尺度等、シングル介護者の危機的状況を回避するための支援に向けた示唆を得た研究である。なお、本調査は大学院倫理審査を受けている（承認番号 14-I g-78）</p> <p>調査1では、11名のシングル介護者に対するインタビューをもとに質的統合法を用いてコード化した逐語録の統合・概念化を通じ、介護者の危機促進要因として「介護前の自分中心の生活」など3つのカテゴリーと、「確立されていた自由なライフスタイル」など9つのサブカテゴリー、さらに危機回避要因として「サポートの活用と試行錯誤」「危機意識の変化」「生活の再構築」という3つのサブカテゴリーが位置づけられた。</p> <p>調査2では、シングル介護者によって起こされた8つの殺人事件の判決文をもとにテキストマイニングによる自然言語分析を行い、殺人事件発生の内的要因として「親子の依存関係」「疾患や症状への知識不足」等6項目が、外的要因として「トリガーとなるアクシデント」「健康な成人の同居という条件が、適切なアセスメントやニーズ把握に繋がらなかった点」等5項目があることが明らかにされた。</p> <p>調査3では、調査1・2を統合して得られた危機要因をもとに46項目の「シングル介護者の危機尺度」の開発を目的としてアンケート調査を行い、危機に影響を及ぼす因子として「介護負担感」「自尊傾向」等の8つの因子が抽出された。</p> <p>各種調査等では、長時間の介護や要介護度などが介護危機の要因だとされているが、本研究では介護の始まり時期や被介護者の入退院の直後、症状悪化などが危機増大の要因であり、介護者の発達段階や危機的心理状況を理解し、乗り越えるべき課題は何かを明らかにしながら介護者自身の課題対処能力を高めるための支援が危機回避には必要であることが明らかにされた。本研究は、今後ますます増えるシングル介護者に対する支援に貢献する研究として高く評価できる。</p> <p>12月9日に審査会を行い、3つの研究の関係性をより明確に記述することなど、審査員から加筆修正を求めたところ、再提出された論文は必要な加筆修正が適切に行われていた。以上の結果、審査会の審査員全員が本論文は博士（医療福祉学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	小林 雅彦	
	副 査	大熊 由紀子	
	副 査	鈴木 英子	